

第30回FF日本大会 in 愛媛 代表者会議議事録

開催日時:2018年10月14日(日) 9:30-12:05

開催場所:大和屋本店 4F「杜若の間」

参加者:61名

1. 開会挨拶とゲスト紹介 (9:30-9:35)

FF 愛媛会長 石丸和子

- ・災害の多い年であったが秋晴れの下開催できた。ジェレミ・スヌーク氏はハリケーンの影響で来られず。
- ・FFI 大西 弘理事、FFI RSM 金元 勅子氏、FFI 日本メンター石井 嗣代氏、FRC 蓋 康氏、FR 沼 純子氏、FR 藤井 進氏、FR 峯 洋子、の各ゲスト紹介

2. 参加クラブ紹介 (9:35-9:40)

石丸和子

3. FFI 会長との懇談 (9:40-10:55)

FFI 理事 大西弘氏

(1)ビデオメッセージ

(FFI CEO ジェレミ・スヌーク氏コメント)

ハリケーンの影響で来られず。復旧にはしばらく時間がかかりそう。災害や困難の中で今こそ平和が必要新しいアイデアを各クラブに持って帰って欲しい。

(2)各クラブの要望事項討議

大西弘氏

①FFの看板を掲げる行事を通しての外部へのPRについて

(札幌クラブ)

- ・自らの活動を通じて行事を他のメディアに公開してはどうか (大西氏)
- ・来年コロラド州ボルダーでの世界大会では学校での国際交流団体を設立したい (大西氏)

②交換留学制度・奨学金制度について

(大西氏)

- ・親子・孫と一緒に交流を日本のクラブで実施した。上手くいったので制度化するというのもいい。
- ・特別ファンドの設立が必要 ・アメリカの地方の財団に声をかけている
- ・専門スタッフを設けて、成功例を作れば、若い人々へのドアを開け、知名度アップにつながる

③日本のクラブはFFIにどのように貢献できるか

(札幌クラブ)

- ・クラブができる最善の貢献は渡航・受入れを増やすことである。 (大西氏)
- ・短期間での受入れを積極的にすれば、若い人が参加しやすいプログラムを作ることができる。 (大西氏)
- ・FFの設立当時のメンバーが高齢化したが、問題を共有しながらどうやって解決すればいいかを考える。

Global membership や one hundred policy など FFI の board member が決めたが、機能しておらず、全体が把握できていない。FFI の通達をただ受け入れるという受け身の活動ではだめだ。1980年代の原点に回帰しよう。クラブの今後を考え、中立の立場に立って、クラブの意思を FFI 会長に直接伝えられる情報伝達組織が必要と思う。前向きに検討を進めるが、具体的な組織のあり方等については FFI とも相談の上後刻討議することになった。 (大西氏)

- ・今の FFI もクラブも問題を抱えている。代表者会議では情報交換だけしてはだめだ。 FFI の新しいルールには戸惑いを覚えることも。クラブとは離れて FF 全体を考える組織<FFの未来を考える会>を作ったらどうか。共通の問題や、何とかしなければ…という問題を提言する組織が必要。 (札幌)

④one hundred policy (定員を満たす方針、Fill the seat policy) について

- ・中部ブロックから反発があった。アメリカではチラシを作るので集まるが日本ではクラブ間での温かい交流が好まれるので難しい。クラブ自身はどうすればいいのか、難しい課題でもある。 (金元氏)
- ・アメリカでは全土の募集をかけるが、日本は事情が違う。クラブ自身がどう募集すればいいかを考え、クラブ間の壁を取り払い、悩みを共有し、情報を共有することが必要。 (金元氏)
- ・人数が少なく、渡航ができない。若い人が多いので、一週間は難しい。短期間でやりたい。希望クラブを出すことができるようにしてほしい。FFI を通しての現状では難しい。 (大田群馬)

⑤受入期間、シェアホスト、ストップオーバー・ホスピタリティについて

- ・SOHに関しては、2週間のうち1週間がキャンセルになったので探してほしいとか、3週目にもう少ししたいとかいう要望がある。それは私が調整可能である。(金元氏)
- ・オーストラリア、ニュージーランドなどは日本への短期間での交流に反発することが多い。(大西氏)
- ・受け入れ先を増やすという目的でショートステイ（シェアホスト）を試験的にやってみたが不評だった。地理的な問題もあるかも…(大阪)
- ・ショートステイ（シェアホスト）の件に関しては、奈良クラブでは中抜きという形にして1日京都に行っているようだ。事前に十分理解を得ていれば可能ではないだろうか。(大西氏)
- ・一週間通すから日本人の生活が理解できるのではないだろうか？その方が心が通じるのではないだろうか。(東京)
- ・日本に対してリクエストが多い。一か所と、プラスαにした方がリクエストに応えられるのでは。(大西氏)
- ・行くことに意味があるのであって、ショートステイ（シェアホスト）で文句を言うのは理解できない。1泊でも2泊でも、外部の人を入れてもいいのではないか。(札幌&大西氏)
- ・受入れ1週間は現状では成り立たない。理想は言っていない。メンバーも多くなく、いつも受入れをしてくれる家庭は5家庭、あとはショートステイ（シェアホスト）。(静岡)
- ・高齢化のため半分、半分とあらかじめ決めている。HCは必ずACにそれを伝えいろいろな人とお友達になってくださいと言っている。クラブの人たちには3日でいいですよ、助かりますと言って、お願いしている。(福岡)
- ・今まで30年間ショートステイ（シェアホスト）で特にトラブルはない。(郡山)
- ・事前に伝えて了解を得ていたのでもうまくいった。親密になれないということは聞いていない。若い人にはショートステイ（シェアホスト）が実施しやすい。ただ外国から来る人たちが本当にそれを望むのか？(埼玉)
- ・1週間ではなく5日間にしている。(熊本)
- ・半々に分けられると落ち着かないのではないか。2年前からやはり1週間がいいということになった。自分が渡航したとき、1週間お世話になったことを考えると…(長崎)
- ・若い人を増やすには3~4日のステイを増やした方が間口が広がり高齢者の退会を防ぐためにも良い。(西東京)
- ・高齢化で解散という考えが2年前に出た。3日間での受入れをしたり、準会員も参加できるようにしたり、2年に一回の渡航にしたりしている。(京都)
- ・短期間の受入れを進めるためにはオンラインで打ち合わせするなどして渡航前に良好な関係を築いておくことが必要。(広島)
- ・短くても長くても良い。向こうを納得させればよい。(大分)
- ・基本の理念はきちんと守るべき。大枠はFFIで決めて貰って、日数などは各クラブの実情に応じて決めるべき。(三重)

⑥会員増加対策

- ・FFの原点は何か会員が理解していない。「旅行に行く」という感覚を払拭する必要がある。FFは何か知ってもらうためにメディアの力が必要だ。メディアを利用して、実際メンバーが増えた。(札幌&東京)
- ・メンバーを増やすことが大切。国際交流協会に足を運ぶことが必要。地元の新聞に交流の様子を載せている。どのようにして会員を増やしたか来年話を聞きたい。(愛知)
- ・今はライバル(ほかの国際交流)が多い。Destinationが面白ければ会員が満足し、楽しければ人はやめない。いかにして楽しくするか。学校を使っている(Webキャンパス, アジア・太平洋—Face timeで打ち合わせ等をしている)(広島)
- ・大西さんがおっしゃったように、「原点に帰る」べき。受け入れる人の質が問われている。情報を開示し、理念を伝えてから来てもらう。(鳥取)
- ・新聞やNHKに取り上げてもらえると必ず参加者が増える。(熊本)

⑦FFI 財政状況

- ・ FFI の財政状況について。支出のうち、人件費が 70%、その他が 14%とあるが、何に使っているのか？

将来投資は無理というが本当にそうなのか。

(大阪)

14%の内訳は プログラム開発経費 6.9 万\$, 理事会経費 3.8 万\$, FR 経費 2.3 万\$, 外部委託費等 4.0 万\$計 17 万\$です。

(大西氏)

4. 各ブロック会議の報告 (11:00-11:20)

(1)北日本ブロック

(FRC 蓋 康氏)

- ・ 9 月 9 日仙台にて開催、37 名出席。
- ・ 新入会員の募集について。国際交流行事や JICA への参加。同好会つながりでの入会もある。
- ・ 受入れ時、新聞や市長に声をかけている日数に関しては相手方と連絡を密にする。
- ・ 最近では山形クラブ会員数が減っているので、宮城クラブで受け入れたとき 1 泊山形クラブが受け入れた。
- ・ ショートステイ時は、次の受け入れ先とつながるように、パーティーで同じテーブルにしたり、行事と一緒に出掛けたりなどしている。
- ・ 日本文化体験、小学校を訪問して給食や掃除など一緒にしてもらおう。
- ・ 記念行事に向けて積み立て中。

(2)関東ブロック

(FR 沼 純子氏)

- ・ 5 クラブ、37 名参加。
- ・ 納涼パーティーや英語研修など行っている。ディナーホスト、デイホストなどクラブ内でのサポートが必要。
- ・ 英語やサイクリングなどいろいろな形での交流が必要。会員増加のためには PR はもちろん、ホームステイを若い人に味わってもらおうように、費用やプログラムの内容を話し合ってもらわなければならない。
- ・ “Faces, not places.” を大切に。

(3)中部ブロック

(FR 藤井 進氏)

- ・ 54 名参加。増額した 50 ドルの用途について。HC の選定に関しては、各イベントに責任者を作るようにして負担を軽減している。京都ツアー(受入れ前後にホテル泊という形を取ることも)、富士山、比叡山、伊勢神宮、日本文化体験などが好評。
- ・ 渡航に関しては、ロシアはビザ取得が大変だったこと、メキシコはコミュニケーションが困難だったことが挙げられる。
- ・ 会員数の増加については会員同士のコミュニケーションが大事、楽しいことが大切。友人に呼びかけをする。

(4)西日本ブロック

(FR 峯 洋子)

- ・ 39 名参加。来年は愛媛クラブとして英語研修を計画している
- ・ クラブ間のプレゼント交換をどうするか。寄付金の場合は新聞社に贈ると新聞に掲載され PR 効果がある。
- ・ 喜ばれたことは学校との交流、日本文化体験(着物の着付け、座禅やそば打ち体験など)であった。

5. 討議<より良きホームステイを目指して> (11:20-12:05)

(1)ストップオーバー・ホスピタリティ、シェアホストについて

- ・ FFI への支払いについて、SOH は 4 日間だと 1 泊 20 ドル×4 で 80 ドル、レギュラー交流は 5-7 日間で 140 ドルとなる。差がですぎるので SOH は 1 泊 30 ドルにしてはどうか。(大西氏)
- ・ 各クラブから賛成の発言があり、<SOH について FFI フィー 30 ドル×日数、受入れプログラム 100 ドル (AC・HC で協議)>を日本クラブの意見として大西氏が本部と検討する。(司会)

(2)健康問題について(アンケート回答集約 p. 8~9 参照)

- ・ アレルギーが多くなっている。これに対してホストが真剣になりすぎ。自己責任ですよ、調味料は自分でもってくるようにと書いた。歩いて参加できるか、また公共交通機関で行けるかあらかじめのチェックが重要。
- ・ クラブそれぞれ事情が違う。共通したものは意味がない。自分たちの独自の Health & Mobility Check List 作っている。経験から出たものを付け加える。(札幌)

- ・アレルギーの一種であるアナフィラキシーに静岡クラブはどう対応されたか。 (司会)
- ・グルテンによるアナフィラキシー症候群だったので、グルテンフリーを要望する人には小麦が入っていない調味料を使用している。クラッカーのようなものを持ってくるアンバサダーもいた。 (静岡)
- ・パンがダメなゲストがいた。アレルギー・歩行に関して5段階評価をつけてほしい。AC・HCが話あってもわかりにくい。 (熊本)
- ・車いすの方の受入れは？ (西東京)
- ・FFI,FFJに相談した結果、車いすの人は断った。ただ勝手に来たことがある。トルコからの車いすの方は断った。 (大阪)
- ・実際に来てしまうこともあった。 (奈良)
- ・ストマ（人口肛門）の人が来た。浴室を別にしたいというゲストもいたり、ベッドではないとだめだということで急遽ベッドを設置したケースもあった。 (鳥取)
- ・独自のリストがあるクラブもある。内容が詳しくないものもある。もう少しFFIのチェックリストを今の時代にあったものにしてほしい。 (宮城)
- ・アレルギー、歩行に関する事前情報は更なる充実が必要であると思います。特に事前情報がないアレルギー対応は非常に困難です。今回札幌クラブ独自のHealth & Mobility Check Listを開示頂きましたので添付します。それを参考にして、各クラブで夫々独自のHealth & Mobility Check List作成していただき次回の交流に活用していただければ幸いです。今後とも情報の共有化によりくより良きホームステイを目指して>行きたいと
思います。 (司会)

(3)FFIへ要望について

- ①マッチングリストに写真を入れる欄を作ってほしい。 (宮城)
FFIとしてはその方向ではないが、マッチングリストを独自で作っても構わない。長崎、郡山に写真入りマッティングリスト活用例があります。 (金元氏)
- ②FFIへの寄付の方法は？ (西東京)
バザー、グループ活動、オークション売上げ、WFDに募金箱設置、個人やクラブで行うこと可能 (金元氏)
- ③ACにはある程度英語ができる人になってほしい。 (西東京)
英語でのコミュニケーションに問題がある場合はRegional Support Managerに相談してもらえるとサポートすることが可能です。 (金元氏)
- ④FFIウェブサイト、年間受入れ・渡航計画表はあるか。 (岐阜)
HPに記載しています。 (金元氏)
- ⑤本部で働く人の仕事内容や顔写真はありますか。 (鳥取、宮城)
こちらもHPにあります。 (金元氏)
- ⑥苦戦しているFFの今後のためにできることはありますか。 (埼玉)
アジア内及び日本国内での協力支援、新しいプログラム、世界大会への参加、寄付金の協力など多くの方法があります。 (金元氏)